

す。例えば、プラスチックのしょう油の空ビンなどは、上部を切り取り注ぎ口をさかさに差し込めば花びんなどに利用でき、倒れても水がこぼれにくいものです。

又、風呂などアカを取り除くことにより毎日水を替えなくても済みますし、このように物を大切に、再利用を考えるとということが省エネを進めるうえで大切なことと思います。

生ごみは堆肥に

後藤 芳子さん

富士見台7丁目(32歳)

富士市のごみ焼却費が、年間8億円余もかかるということを知り驚きました。特に、これから夏場にかけては、水分の多いごみが出るため、焼却するのにも大変とか。

我が家では、台所ごみと紙くずは家庭で処分するようにしています。

台所ごみは、底を切りぬいたポリバケツを埋めたて、それに入れるようにし、紙くずは焼却処分しています。台所ごみを肥料にすると、野菜や植木にとっても効果があり、ごみの

減量と合わせて一石二鳥。

各家庭から出される約40%が台所ごみなどの厨芥類ちゅうがいですが、これらは各自の心がけひとつで減らすことができます。

ごみを少なくすることが、省エネにもつながるのでは…。



森口さん一家

自然の利用で省エネ

森口 伝さん

鈴川(45歳)

文明が発達している現代社会では、電化製品をはじめ、いろいろ便利な生活を営めるようになっていきます。

このような状況下で、ムダな電気や水を使わないという事は大へん難しい事です。

そこで省エネというほどのことではないのですが、私達一家は毎年夏になるとキャンプへ行っています。

勿論、子ども達に自然をとおして、いろいろ学んでもらおうという教育

的側面が大きな理由ですが、自然(既製品ではないもの)をうまく利用、活用することが広い意味での省エネに役立つのではないかとことです。

例えば、そこには電気はありません。拾い集めた木々が明りのかわりです。水も蛇口をひねればふんだんに出るといわけではないではありません。

又、子供達は食器を洗うのに砂や草を使い油汚れをおとしていました。

このように、自然に親しみ、しかもうまく利用することが、教育は勿論、省エネにもつながるのではと思います。

先生との結びつきが強い



山崎京子さん(天間)
吉原商業高校 3年

プロフィール

中学2年の時、東京葛飾区から富士市へ。現在、吉原商業高校の3年生。クラブは茶道部、趣味は編み物、卒業後は銀行へ就職したいという可愛らしいお嬢さん。両親と弟、妹の5人家族です。

東京と富士の学校の違いは

山崎 始業時間の違いもありますけどブランドが富士の方が広いですね。それにクラブ活動も盛んです。

友達とかの人の違いは

山崎 富士の友達はカフツとしていてみんなで騒ぐのが好きなようです。

教育の違いは何かありますか

山崎 東京では受験なんかは自分で決め、相談するのは友達とか両親が主でしたけど。こちらでは先生が相談になってくれるなど生徒と先生の結びつきが強い気がします。

校則なんかも、富士では髪型をはじめ細かくきまっていますが、東京ではあまり細かくきまっていませんでした。

富士市の印象は

山崎 やはり紙の町ですので製紙工場が多いのが目につきますけど、富士山をはじめ山や海が近くにあり暮らしやすく楽しみやすい所だと思います。

市に対して望むことは

山崎 現在、汽通ですが交通の便が悪いのと、公園も少ない気がします。